

伊平屋空港の調査報告書1



伊平屋空港協議会

[沖縄県・伊平屋村・伊是名村]

パブリック・インボルブメントとは
(Public Involvement)

「市民参画」または「住民参画」と訳されます。公共事業の施策を立案する過程で地元住民などから幅広く意見を募り、計画決定に活かしていく手法です。

伊平屋空港のPIはどのように進めるの？



伊平屋空港協議会（沖縄県・伊平屋村・伊是名村）では、伊平屋空港の整備にあたってパブリック・インボルブメント（PI）手法を導入していきます。計画の段階から積極的に情報を提供し、みなさんのご意見を伺いながら検討を進めることとしています。

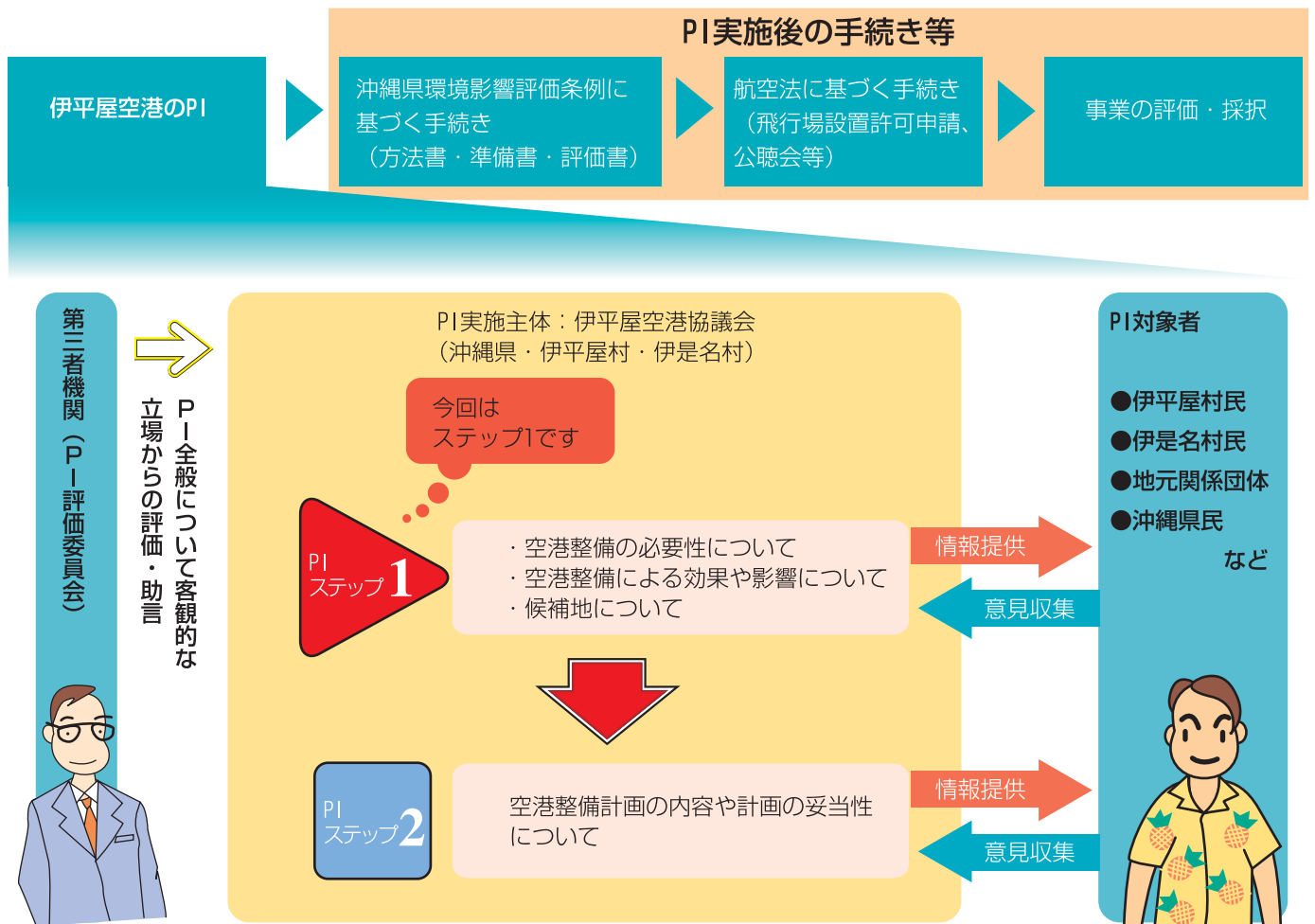
◎ どうしてPI（パブリック・インボルブメント）を行うの？

PIを実施することにより、以下のような効果が期待できるからです。

- ① 事業内容について、みなさんが良く知り、理解することができます。
- ② みなさんのご意見を踏まえ、より有益な事業とすることができます。
- ③ 事業に対する合意形成に向けた環境が整備されます。
- ④ 時間や費用を有効に活用でき、透明性、公平性を高めることができます。



◎ 伊平屋空港のPIの進め方



どうして空港整備が必要なの？①

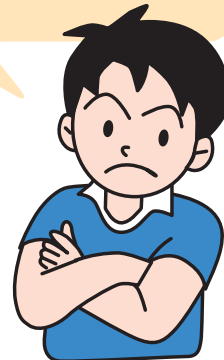
◎現在の交通事情は？

伊平屋村・伊是名村は沖縄本島那覇市の北約100kmに位置する離島村です。両村と運天港（沖縄本島）の間には、フェリーが運航しており、島の重要な交通手段を担っています。

また現在、伊是名村には利用者の要請があった時だけチャーター便による運航を行う場外離着陸場があります。



那覇市内まで約4時間かかるんだね。



◎今の交通事情は何が問題なのかな？

移動にたくさんの時間がかかる。

伊平屋村・伊是名村から那覇市内まではフェリーを利用して約4時間かかります。

伊平屋村・伊是名村と沖縄本島を結ぶフェリーの欠航が多い。

伊平屋村・伊是名村と運天港を結ぶ唯一の交通手段であるフェリーは、台風の到来時期や冬の偏西風が強い時期には、荒天により欠航することが多くあります。続けて1週間以上も欠航することもあります。

多い年には年間50日程度、フェリーが欠航しています。

フェリー全便欠航日数（平成16年度）

- ・伊平屋航路：46日
- ・伊是名航路：50日



伊平屋村・伊是名村は、日本本土はもとより、沖縄の中心地である那覇からの移動にも長時間を要し、人々が気軽に訪れることの出来ない離島となっています。

このため、両村が様々な地域活性化策を実施したとしても、他地域との交流が生まれにくく、その効果が十分に得られないのではないかと心配されています。

どうして空港整備が必要なの？②

◎今の交通事情に対して皆さんから寄せられた声

- フェリーが欠航し、定期通院や乳幼児の定期検診などに行けず困った。
- 伊是名～那覇間の航空が定期運航でなく、チャーター運航であるため、料金が高額である。
- フェリーが連続して欠航すると、チャーター運航以外に交通手段がなく、仕方なく利用する。
- 村外へ通院する際、医療費のほかに高額な交通費が重なり、経済的負担が大きくなる。
- 沖縄本島から戻る際、フェリーが欠航し、交通費、宿泊費、食費などの費用が必要以上にかさんだ。
- 船が欠航したため、親戚の結婚式に出席できなかった。
- 悪天候により村外への出張に行けなくて困った。また仕事が済んで村へ帰れなくなり困った。特に学校の教諭などの場合は、児童・生徒は授業が受けられず自習になる。
- 島外から講師などを派遣依頼する際、フェリーの運航状況により変更をしなければならず、調整に困った。

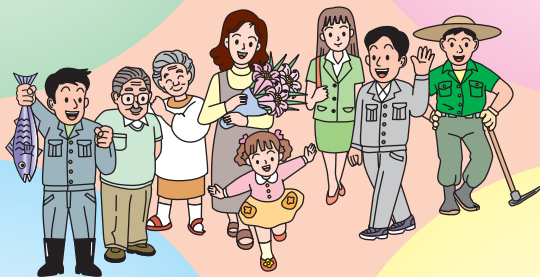
◎空港整備が必要な理由

■移動時間を短くして豊かな暮らしの確保

島の暮らしを豊かにするため、那覇空港を結節点とした航空ネットワーク網に両村を組み入れることが必要です。

■島の暮らしと経済を支える移動交通手段の確保

今のフェリーによる交通手段は、荒天による欠航が多く、両村の人々の暮らしと経済にとって大きな問題となっています。フェリーだけでなく、代替交通手段として航空が必要です。



■緊急時でも早く確実に移動できる交通手段の確保

急病人が出た際などには、早く確実に移動できなければなりません。

迅速で、フェリー欠航時にも運航の可能性のある代替交通手段としての航空が必要です。

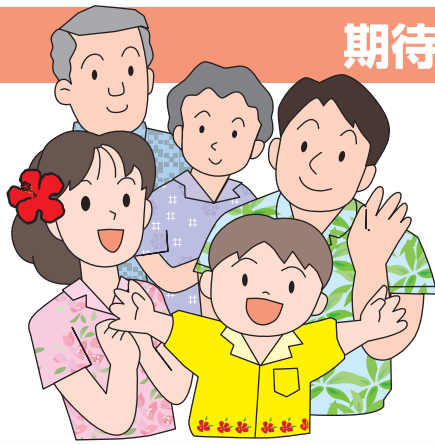
■防災拠点の確保

台風や地震、津波などの自然災害時における緊急輸送拠点を確保する上でも空港の整備は重要です。

空港を整備すると、どんな効果や影響があるの？

これまでに行われたアンケートやヒアリング調査の中から、空港を整備することによって期待される効果、心配される影響について寄せられたご意見を整理しました。

期待されている効果



◎ 輸送手段の安定性確保

- 台風時期はフェリーの欠航が多く、冠婚葬祭行事への列席を断念するなど困ったことが多いが、空港整備によって改善が期待できる。
- 天候に左右されにくい輸送手段が確保できる。
- 急な仕事や生活物資の輸送などに対応でき、便利になる。
- 急病人が出た時などの緊急医療体制が整う。

◎ 島の活性化

- 伊平屋空港を早急に着工し、海と空の交通網の整備を図り、若者が夢を持って帰島し活気ある島作りに参加してほしい。
- 本島中心部へ気軽に移動できると、生活範囲が広がり、さらに生き生きする。
- 島のみんなが元気になる。
- 雇用が増える。

◎ 産業の振興

- 観光客の増加や自然体験型観光の事業化など、観光産業の振興につながる。
- 両村の交流の場となり、観光業、販売業、宅配業などの活性化が期待できる。
- 本土および本島への輸送が迅速でコストが減ると、海産物や農産物などの地場産業の販路が拡大し、出荷量の増加が期待できる。

心配されている影響

- 豊かな自然を代償にして整備しても、ほとんど利用されなくなった離島の空港をいくつも見てきた。伊平屋も十分な検討をして慎重な判断をしてほしい。
- 島民の為なら、利便性が改善されるので空港はあった方が良い。
ただし、村や村民の負担が増えることも考えられるため、経済性を含め十分に検討してほしい。
- 自然が破壊されるのではないかと心配。
- 観光客の増加により治安が悪化するのではないかと心配。
- 村営船舶の利用者（フェリー旅客者）が減り、船舶財源の悪化が懸念される。

候補地について

伊平屋村と伊是名村は、本土復帰当時から沖縄県などに対して空港の整備について要請活動を行なってきました。また、沖縄県でも、同地域の空港整備について、さまざまな検討が行われてきました。

これまでの経緯や両村との話し合いにより、伊平屋村野甫島を候補地として検討を進めることとなりました。

◎これまでの経緯は？

- S52 伊平屋村における空港適地調査及び基本設計を実施し、野甫地区、前泊地区、島尻地区の3候補地について比較検討を行う。
- S53 伊是名空港立地可能性調査及び基本設計を実施し、3候補地について比較検討を行う。
- S59 空港建設位置として野甫地区を選定し、国へ伊平屋空港基本計画概要書を提出。
- S62 地元野甫区の反対により、整備を見送る。
- H10 野甫地区において地権者同意取り付け作業を実施。（伊平屋村）
- H10 伊是名村は、伊是名場外離着陸場の使用を開始。
- H11 検討委員会等により伊平屋空港基本計画（野甫案）を策定。
- H12 野甫地区における空港整備計画（案）の地元説明会を実施。
- H14 野甫地区において再度、地権者同意取り付け作業を実施（伊平屋村）し、全員に近い地権者の同意が得られる。
- H17 沖縄県、伊是名村、伊平屋村で構成する「伊平屋空港協議会」を設置。

◎どうして野甫島が候補地として選ばれたの？

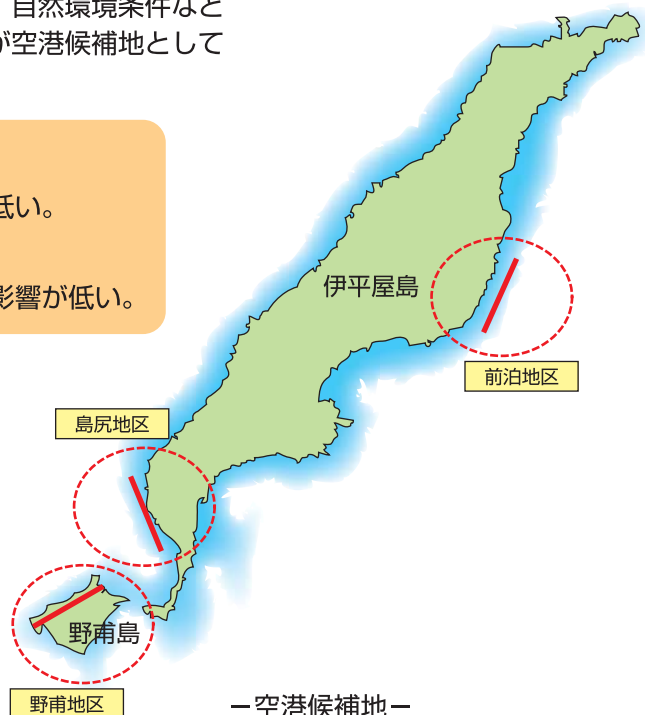
理由1：これまでの空港候補地に関する検討において、候補地として最適であるとの結論が得られていること。

空港候補地については、昭和52年より調査、検討されています。平成11年度調査では、有識者等からなる検討委員会が設置され、その中で、運航条件や建設条件、自然環境条件などの様々な観点から検討した結果、野甫島が空港候補地として最適であるとの結論が得られました。

野甫島案が優れている3つの点

- ①島の重要な産業である漁業への影響が相対的に低い。
- ②他の候補地と比べて、建設コストが安い。
- ③他の候補地と比べて、海洋生物や海域環境への影響が低い。

理由2：空港候補地として既に地域住民に認知されており、想定される範囲の地権者の同意もほぼ得られている状況にあること。



航空旅客数の予測

◎予測方法

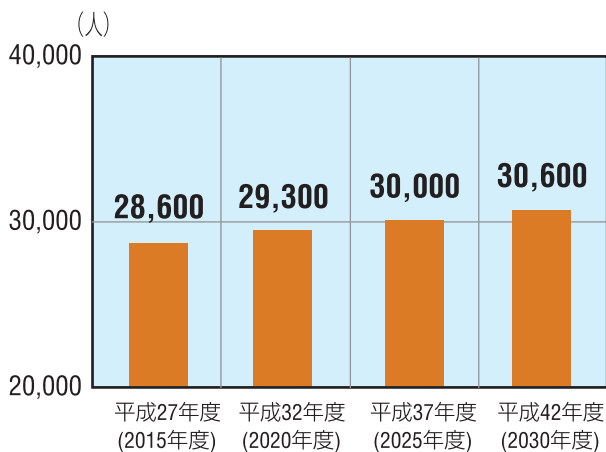
伊平屋空港～那覇空港路線の航空旅客数は、フェリーの利用実績や伊平屋・伊是名両村の人口、経済規模等をもとに、航空運賃や所要時間を想定して予測しました。

予測の流れ



◎予測結果

伊平屋空港～那覇空港路線の航空旅客数は、航空運賃を片道10,000円と設定した場合、年間30,000人程度で推移することが予測されます。なお、航空旅客数の予測値と就航便数は設定する航空運賃により変動します。



- ◆ 伊平屋村の人口：1,547人
伊是名村の人口：1,841人
(平成17年3月31日現在)
- ◆ 航空旅客数は伊平屋村と伊是名村の旅客の合計です。
<旅客の割合>
伊平屋村：伊是名村≒2：1
- ◆ 座席数39席の航空機が1日当り2往復就航。

<参考> 類似離島の航空利用状況

多良間空港の実績 (多良間～宮古路線)

- ・ 旅客数：年間34,471人 (平成16年度)
- ・ 運航便数：1日2往復 (座席数：39席)
- ・ 多良間村人口：1,460人 (平成17年3月31日現在)

空港計画の概要

◎計画の概要(案)

- 滑走路 : 1,200m × 30m (予定)
- エプロン : 2バース (航空機が駐機する場所)
- 航空保安施設 : 無線・照明施設 (航空機の離着陸を支援する施設)
- 就航機材 (想定) : DHC-8型機 (通称: ダッシュエイト、39人乗り)



—就航機材DHC-8型機—



—空港イメージ図—

計画をイメージしたもので、確定されたものではありません。

皆様のご意見をお待ちしています。

詳細は、添付のご意見記入用紙をご覧ください。

お問い合わせ先

伊平屋空港協議会 (事務局: 沖縄県土木建築部空港課)

沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号 TEL:098-866-2400 FAX:098-869-6279

ホームページ <http://www.pref.okinawa.jp/airport/index/>

メールアドレス aa063002@pref.okinawa.lg.jp

沖縄県伊平屋村役場: 経済建設課 TEL:0980-46-2176 FAX:0980-46-2606

ホームページ <http://www.Vill.iheya.okinawa.jp/>

沖縄県伊是名村役場: 建設環境課 TEL:0980-45-2004 FAX:0980-45-2144

ホームページ <http://www.izena-okinawa.jp/>